

賽銭箱の製作

作：小助川 竜弥 田和 優哉 村岡 滯 / 指導教諭：大信田先生 堀内（寛）先生

はじめに

まず、一年次に行った木工加工で得た知識や技術を活かしながら、自分たちの技術で製作ができそうで尚且つ作りがいのあるものが良いと考えたところ、寺社などの日本の建造物が好きな班員が賽銭箱の製作を提案したので、難易度も丁度良く作り甲斐がありそう、となり賽銭箱の製作になりました。

製作内容

賽銭箱の製作をするにあたって以下の手順で作業しました。

一. ソリッドワークスを使った図面の製作

〈課題〉自分たちで作りたいものを製図するのが初めてだったので手こずった。

二. 材料の切り出し

〈課題〉予算的にあまり良い材質の木材を使用できなかったため材料が歪んでしまったりなどで予定通りの寸法で切り出すのが難しかった。

三. 材料の色塗り

〈課題〉塗装が得意な班員がいたので目立った問題はなかったが、材料のもともとの傷などが色を塗ることで目立ってしまった。

四. 彫刻刀での「賽銭」文字の手彫り

〈課題〉彫刻刀での作業だったので溝の深さがまばらであったり、材料が彫るのに適してなく少しささくれ立ったりしてしまった。

五. 材料の組み立て

〈課題〉材料の切り出しの時点で寸法が間違っていたりして組み立てたときにはまらなかったり逆に余裕がありすぎてしまったりして微調整が沢山必要になってしまった。



おわりに

三人での作業だったのでうまく役割分担し、衝突することなく各々が得意な分野で活躍できたので、三人で力を合わせて頑張った！と胸を張って言える作品になりました。材料の質の問題や寸法の計算を間違えたり、技術面での限界を感じたりなど、様々な反省点がありますが、かなり良い出来栄だと思います。各々が満足できる物を作れました。